

# 六本木の街を舞台にしたアートの饗宴 『六本木アートナイト2022』9月開催に向けて全プログラムを発表

テーマ：「マジカル大冒険 この街で、アートの不思議を探せ！」

2022年9月17日(土)～9月19日(月・祝)

現代アーティスト村上隆をはじめ、約70組のアーティストが繰り広げる約100のプログラム  
気鋭のアーティスト達らによる饗宴が、六本木の街にアートの魔法をかける

「六本木アートナイト2022」は、メインプログラム・アーティストに日本を代表する現代アーティスト村上隆を迎え、「マジカル大冒険 この街で、アートの不思議を探せ！」をテーマに、9月17日(土)～9月19日(月・祝)の3日間開催いたします。そしてこの度、六本木の街を舞台に繰り広げられる「六本木アートナイト2022」のプログラムが決定いたしました。

美術館をはじめとする文化施設、大型複合施設、商店街が集積する六本木の街全域を会場として、ペインティングやインスタレーション、音楽、パフォーマンス、映像、トークなど、約100の多様なプログラムを展開、参加アーティストは約70組に及びます。

作品展示に加え、2020年に開催取り止めとなった「六本木アートナイト2020」や、「六本木アートナイト スピンオフ・プロジェクト」のプログラム内容を引き継ぎながら、デジタルも取り入れることで、さらに充実したコンテンツを展開し、社会に於けるアートの更なる可能性を発信します。

驚きと感動、出会いに満ちたアートで彩られる六本木を、ぜひお楽しみください。



©2022 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©MADSAKI/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro



増田セバスチャン (Polychromatic Skin - Gender Tower) Polychromatic Skin - Gender Tower- イメージ



NPO法人 虹色の風  
(NO BORDERS - 画家松井守男とアートな仲間たち)



今井俊介 (untitled) 2017年



ノラ・デザインコレクティブ (つかの間)



キムスージャ (演替的なもの) photo: 木奥恵三



コンソーシアムグループ・ノガラ  
(しなやかに生きる～曲がる人々～)



牧野永美子 (あかるい場所)



TANGENT (INAHO)



楢皮一彦 (HIWADROME TYPE Δ)



まちと美術館のプログラム (つむぐプロジェクト  
2020年～2021年活動紹介) 撮影: 田山達之



古屋崇久 (人工能による顔の識別)



東弘一郎 (無限車輪)  
photo: Ikuya Takahashi



マイケル・リン (窓) 2018年  
展示風景: 台湾高速铁路、台中駅



原田郁 (WHITE CUBE - WHITE CUBE 2018)、  
アートフロントギャラリー、写真: 野口浩史



外国語ガイドツアー

今回は、新型コロナウイルス感染症対策として、「密」を避けるために従来のオールナイトでの開催はいたしません。開催日程も3日間に拡大し、一部先行展示を行うなど、観客集中の緩和と鑑賞機会の分散に努めて開催いたします。

※開催に先駆けて9/3(土)より展示を行う、先行展示プログラムがあります。

※各プログラム概要は、次頁以降をご参照ください。なお本リリース内容は2022年8月時点のものであり、今後変更になる場合があります。



東京都



ARTS COUNCIL TOKYO



MINATO CITY



文化庁  
Agency for Cultural Affairs,  
Government of Japan



日本博  
JAPAN CULTURAL EXPO

## ■メインプログラム

### 村上隆による「ドラえもん」と、村上がキュレーションしたアーティスト12組による「ドラえもん」が大集合！

「六本木アートナイト 2022」では、メインプログラム・アーティストとしてだけでなく、村上隆のプロデューサー的な側面も楽しめます。

村上がキュレーションしたアーティスト達も同様に「ドラえもん」に挑み新作を制作し、それを村上プロデュースのもと、六本木ヒルズアリーナ、東京ミッドタウン、国立新美術館、ラピロス六本木の4か所に展示予定です。村上をはじめ今を生きるアーティストが、伝説のアイコンとどのようにコラボレーションするのか、期待が高まります。

●展示期間：9/17（土）～9/19（月・祝）

●展示場所：六本木ヒルズアリーナ、東京ミッドタウン、国立新美術館、ラピロス六本木



Photo by RK (IG:@rkrkrk)  
©Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro



<村上隆 六本木ヒルズアリーナ展示予定作品>

©Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro



<村上隆 東京ミッドタウン展示予定作品>

©Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro



#### <六本木ヒルズアリーナ展示予定作品>



細川雄太

©Yuta Hosokawa ©Fujiko-Pro



くらやえみ

©Emi Kuraya/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro



ob (オビ)

©ob/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.  
©Fujiko-Pro



村田森

©Shin Murata/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro



青島千穂

©Chiho Aoshima/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro



T9G (タクジ) & ナカザワショーコ

©T9G ©Shoko Nakazawa ©Fujiko-Pro

#### <国立新美術館展示予定作品>



Mr. / ミスター

©Mr./Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.  
©Fujiko-Pro



大谷工作室

©Otani Workshop/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro



TENGAone (テンガワン)

©TENGAone/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro



Kasing Lung

©KasingLung ©Fujiko-Pro

#### <ラピロス六本木展示予定作品>



タカノ綾

©Aya Takano/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro



MADSAKI (マサキ)

©MADSAKI/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.  
©Fujiko-Pro

## ■ 六本木ヒルズ



INAHO

### TANGENT 《INAHO》

夏の終わり、黄金に輝き風に揺れる稲穂にインスピレーションを受けた、フロアライト／インスタレーション。人感センサーとソレノイドを搭載し、人が近づくと穂が揺れ始め、LEDに光が灯る。人が離れると、光と揺れがゆっくりと止む。第一回レクサスデザインアワード受賞作品。過去にミラノ、ニューヨーク、パリ、ドバイ、ロンドン、フランクフルトなど様々な都市で招待展示を重ねているが、今回は初めての日本での一般公開となる。

- 日時：9/12(月)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木ヒルズ ノースタワー前
- 参加料：無料

先行展示プログラム



六本木ヒルズメトロハット イメージ

### DAIGOBALLOON 《Wave》

スポーツ観戦の応援などで使用されているスティック型バルーンを1万個以上使用して制作されたインスタレーション。バルーンをワームホール状に形成させることで、自然の風の流れによって、それぞれが触れ合い、拍手のような音を生み出します。同時代を生きる人々が繋がりがあって共に振動することで、「同時代と一緒に生きていることの喜び」を表現するとともに、「現在」を生きる人々を応援し、勇気付けたいという想いが込められた作品です。

- 日時：9/7(水)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木ヒルズ メトロハット
- 参加料：無料

先行展示プログラム



©YusukeIguchi

### 井口雄介 《KALEIDOSCOPE》

鑑賞者参加型のインスタレーション作品。万華鏡の仕組みを利用し、鑑賞者自身が自転車のペダルを漕ぐことで、目の前に広がる風景を切り取り変化させていく作品となっています。風景(LANDSCAPE)を万華鏡(KALEIDOSCOPE)のように変化させ、あたかも体験者自身が風景を動かしているかのような作品がこの《KALEIDOSCOPE》です。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木ヒルズ 66プラザ
- 参加料：無料



### ノラ・デザインコレクティブ 《つかの間》

画面の中には人が住んでいます。どこの誰かもわからない。関わるができるのは2秒だけ…。私たちは、日常の一部として見かけるようになった消毒液のディスペンサーをインターフェースとして捉え直し、新たな映像再生装置として六本木アートナイト内の各所に設置/展示します。見つけたら、消毒しつつ、画面から目をそらさないようどうぞお気をつけください。

- 日時：9/3(土)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木ヒルズ ウェストウォーク2階ほか
- 参加料：無料

先行展示プログラム



《HIWADROME TYPE Δ》

### 檜皮一彦 《HIWADROME TYPE E》

出品作の《HIWADROME TYPE E》は、約60台の車椅子が5メートルほどの高さに積み上げられ、LEDや鉄の構造体が組み合わさった立体作品です。すべてのパーツがモノクロームに塗装され照明と合わさることで、光の塊のようにみえます。檜皮は、自身の障がいを車椅子という形で作品の主題に扱うことで価値の転換、あるいはコンテキストの読みかえの可能性を探求し、独自の表現を創り出します。

- 日時：9/3(土)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木ヒルズ ウェストウォーク2階
- 参加料：無料

先行展示プログラム



《Walking Practice》

## walking practice PROJECT 《walking practice : Roppongi Art Night 2022》

アーティストの檜皮自身が日常的に用いる車椅子を、ツアー参加者が押したり、移動させながら、六本木アートナイト2022の展示を檜皮一彦と共に鑑賞する。参加者やそのツアーの鑑賞者は、車椅子から見た視点を獲得し、バリアフリーや身体性についても考えることになるでしょう。また、ツアーを自らの身体性を用いて達成することで、参加者全体の一体感が期待されます。

- 日時：9/19(月・祝) 14:00 ~ 16:00頃予定
- 場所：六本木アートナイト2022会場各所
- 参加料：無料



《窓》2018年  
展示風景：台湾高速铁路道、台中駅

## マイケル・リン 《窓》

本作では、ジオットハウスと六本木ヒルズのウェスト・ウォーク南のファサードという、規模も背景も異なる2つの場所で、台湾の伝統的な格子窓から流用したコイン模様のモチーフが展開されます。格子のモチーフは「見る」という体験を促すスクリーンとして機能し、コインの模様は経済的な交換を意味しています。見るという行為と経済的な交換を混ぜ合わせることで、《Windows》は、六本木の2つの場所と、ナイトライフや(ウィンドウ)ショッピングといった活動を通して、現代の視覚的消費文化について考察を促すのです。

- 日時：9/6(火) ~ 9/16(金)10:00 ~ 20:00、9/17(土) ~ 9/19(月・祝)10:00 ~ 22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木ヒルズ ウェストウォーク2階
- 参加料：無料

先行展示プログラム



1/2はじまった、1/2おわた、たとえいつであろうとも  
2008年/ 2016年 石川文化振興財団所蔵  
©Lawrence Weiner, Okayama Art Summit 2016  
Courtesy of TARO NASU  
Photo : Yasushi Ichikawa

## ローレンス・ウィナー

### 《HERE FOR A TIME THERE FOR A TIME & SOMEWHERE FOR A TIME》

東京という都市、そして六本木という街の歴史や現在(いま)にインスピレーションを得た作品が、六本木ヒルズや東京ミッドタウンなど数カ所で展示されます。英語と共に日本語が使用された作品は、翻訳のニュアンスに踏み込んだディスカッションの結果として完成しています。言葉と文字が伝える意味や心象の、翻訳しようとしてもしきれない何かが、作品として提示されます。

- 日時：9/6(火) ~ 9/16(金)10:00 ~ 20:00、9/17(土) ~ 9/19(月・祝)10:00 ~ 22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木ヒルズ ウェストウォーク2階、ヒルサイド1階
- 参加料：無料

先行展示プログラム



## 野口量 × 伊豆牧子 《CANDY POP》

耳の聞こえにくいダンサーかのけんがつむぎだす世界の中で咲くカラフルな色の《CANDY POP》という花。花言葉は「世界にHAPPYを！」毎回どんな花が咲くのか、一輪車とパフォーマーによるクレイジー&ダイナミックなパフォーマンスの世界をお楽しみに。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料



Session.

## SAYAKA ASAI × Lily (サヤカアサイ × リリィ) 《Session. (セッション)》

足音×氷音のセッション。タップアーティスト、Lily。足の音を彼の声とする。氷染作家、SAYAKA ASAI。氷の溶ける音を彼女の声とする。大地の声、海の声。異なる2人のアーティストによる、新しい対話の世界とは。Immersive sound 映像が届ける、ライブアートパフォーマンス作品。あなたにはどんな声が聞こえますか？

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料

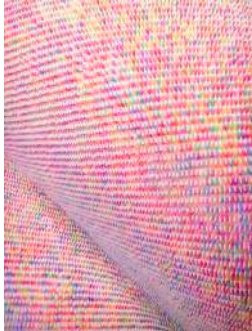


Dewa Ruci (Makutha)

### マクータ《デウォ・ルチ》

デウォ・ルチはインド起源の物語マハーバーラタの一節。パンダワール族のピマが聖なる水を求めて旅をし、海の中で龍との激闘を経て、自身の内なる神デウォ・ルチに出会うという物語。本来は伝統的なスタイルで上演するところ、デジタル映像の中に影絵人形が映り、更にノイズアンビエント的な音楽を融合させることにより新たなインドネシア影絵人形のスタイルを構築します。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料



《Tokyo's Landscape》2008年

### three《Tokyo's Landscape》

《Tokyo's Landscape》は日本のお弁当などで見かけることの多い、魚型のしょうゆ差しを使った作品です。カラフルな色水の入ったしょうゆ差し一つ一つを、現代に生きる人々になぞらえ大量に集合させることで、群衆の様相やその振る舞いが表現されています。色とりどりのしょうゆ差しで覆われた作品は、鑑賞者の豊かな個性や内面を反映すると同時に、その多様性が集団や群衆のなかで埋もれていく様を表しています。

- 日時：9/3(土)～9/16(金) 10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木ヒルズ ウェストウォーク2階
- 参加料：無料

先行展示プログラム



撮影：田山達之

### 六本木ヒルズ&森美術館 まちと美術館のプログラム

#### 《つむぐプロジェクト 2020年～2021年活動紹介》

人と人、人と街、人とアートを紡ぐ。さまざまな背景の人々が集まるこの街で、アートを通じて六本木の未来をテーマに対話を進めています。2020年から2年間は、長期化するコロナ禍の中で、距離があるからできる関係や変化する日常に目を向け緩やかに活動しました。参加者の日常生活に焦点をあて、対話を通じて浮き彫りになる六本木のコミュニティの姿、そして身近にあるアートのかたちを映像化した《紡話プロジェクト》、「食」を通じて会えない人への思いを紡ぎ、大切な人への一品を写真にした《紡食プロジェクト》を展示します。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：けやき坂コンプレックスB1階
- 参加料：無料



### NPO法人 虹色の風《NO BORDERS —画家松井守男とアートな仲間たち—》

9月13日(火)からスタートするアートナイトカフェでは、2019年開催でも好評を博したアールブリュットをテーマとした作品展を今年も開催。光の画家 松井守男の作品に、子供たちの作品がとても自然に溶け込んでいる。「純粋に感動する心」はあらゆる垣根を越え、多様な共存の形を提案してくれる。アートの未来は無限大！新しい試みの作品展。

- 日時：9/13(火)～16(金) 11:00～20:00、9/17(土)～18(日) 11:00～22:00、9/19(月・祝) 11:00～18:00
- 場所：六本木ヒルズ ヒルズカフェ /スペース
- 参加料：無料

先行展示プログラム

## ■ 六本木ヒルズ



### KEY TRAD. 《Amor 邦楽 in 六本木》

伝統は一日にしてならず!かつて日本人の生活の一部であり、アイデンティティーであり、誇りであった邦楽は、交流と変化を繰り返したくましくその歴史を紡いできました。千年を超えて生き続けてきた激しく、儂く、しなやかな日本の音には、計り知れない数の先人たちの喜びや苦悩や悲しみが詰まっています。一音に全てを込める古典の名人芸から超絶技巧を使った遊び心満載の今ここで生まれる即興演奏まで、邦楽の魅力と可能性をまるごと楽しみ味わえるライブです。邦楽はこんなにも自由で過激だった!?

- 日時：9/19(月・祝) 16:00～16:30 ※15:00より整理券配布
- 場所：六本木ヒルズ ヒルズカフェ /スペース
- 参加料：無料



### 東京シティビュー

東京の中心に位置する、海拔250メートルの屋内展望台。東京タワー、東京スカイツリーなど、首都東京のランドマークはもちろん、天気の良い時は富士山までもが一望でき、「都市という名のアート」を鑑賞することができます。

- 時間：ウェブサイトにてご確認ください
- 場所：東京シティビュー（六本木ヒルズ森タワー 52階）
- 入館料：ウェブサイトにてご確認ください



©池田理代子プロダクション

### 誕生50周年記念 ベルサイユのばら展—ベルばらは永遠に—

50年前の貴重な原画を、執筆当時の池田理代子氏の想いや言葉を交えながら展示します。海拔250メートルの展望台 東京シティビューからの絶景と『ベルサイユのばら』が織りなす夢のような世界観をお楽しみください。

- 日時：9/17(土)～11/20(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京シティビュー（六本木ヒルズ森タワー 52階）
- 入館料：詳細はウェブサイトにて掲載予定



### 特別展アリス—へんてこりん、へんてこりんな世界—

ジョン・テニエルの挿絵から、ディズニー映画のアニメーションセル、ティム・バートン監督による映画『アリス・イン・ワンダーランド』、アリスに影響を受けたサルバドール・ダリや草間彌生らの作品、バレエなどでの舞台衣装、ヴィヴィアン・ウエストウッドらによるファッションなど、アリスにまつわる約300点の展示物が一堂に会します。

- 日時：7/16(土)～10/10(月・祝)10:00～20:00(月・火・水曜は18:00まで)、9/19(月・祝)、10/10(月・祝)は20:00まで ※最終入館は閉館30分前まで
- 場所：森アーツセンターギャラリー（六本木ヒルズ森タワー 52階）
- 入館料：[平日] 一般 2,100円、大学生・専門学校生 1,500円、高校生 1,300円、小中学生 700円  
[土・日・祝日] 一般 2,300円、大学生・専門学校生 1,700円、高校生 1,500円、小中学生 900円

## ■ 六本木ヒルズ



《無限之超大図II》  
454.0×220.0 cm ケント紙、インク  
©Daisuke Tajima 2020

### 田島大介「BEYOND THE LINES 超越界限」

圧倒的な迫力を放ち、かつ刹那的な気配も漂わせる都市風景を描く、田島大介の待望の画集『BEYOND THE LINES』のリリースに合わせて個展を開催します。描き手の衝動がそのまま注入されたアグレッシブな線が画面を縦横無尽に疾走し交錯し、その集積で生み出される世界観の独創性は唯一無二。本展では画集掲載の大作を中心に展示する予定です。平面表現の可能性すら更新しうる田島大介の創造性を大画面で堪能できるまたとない機会になるでしょう。

- 日時：9/16(金)～10/10(月・祝) 12:00～20:00
- 場所：六本木ヒルズA/Dギャラリー(六本木ヒルズ ウェストウォーク3階)
- 料金：無料

## ■ 森美術館



ヴォルフガング・ライプ  
《ヘルゼルナッツの花粉》  
2015-2018年  
Courtesy: ケンジタキギャラリー(名古屋、東京)  
展示風景：「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」森美術館(東京)2022年  
撮影：来田 猛  
画像提供：森美術館

### 地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング

花粉、蜜蝋といった生命のエッセンスを用いたインスタレーション作品など、国内外のアーティスト16名による約140点の作品を紹介し、自然と人間、個人と社会、精神世界、宗教、繰り返される日常、そして生と死など、生や実存に結びつく主題の作品が、私たちの想像力を刺激します。パンデミック以降の新しい時代をいかに生きるのか、心身ともに健康である「ウェルビーイング(よく生きること)」とは何かを、現代アートに込められた多様な視点をとおして考える展覧会です。

- 日時：6/29(水)～11/6(日) 10:00～22:00(最終入館 21:30)  
※火曜日のみ17:00まで(最終入館 16:30) ※会期中無休
- 場所：森美術館(六本木ヒルズ森タワー 53階)
- 入館料：[平日]一般 1,800円(1,600円)、学生(高校・大学生)1,200円(1,100円)、  
子供(4歳～中学生)600円(500円)、シニア(65歳以上)1,500円(1,300円)  
[土・日・祝日]一般 2,000円(1,800円)、学生(高校・大学生)1,300円(1,200円)、  
子供(4歳～中学生)700円(600円)、シニア(65歳以上)1,700円(1,500円)  
※専用オンラインサイトでチケットを購入すると()の料金が適用されます。



展示風景「MAMコレクション015: 仙境へようこそーやなぎみわ、小谷元彦、ユ・スンホ、名和晃平」  
森美術館(東京)2022年  
撮影：来田 猛  
画像提供：森美術館

### MAMコレクション015：仙境へようこそーやなぎみわ、小谷元彦、ユ・スンホ、名和晃平

不老不死の仙人が住み、理想郷の1つとされてきた「仙境」。本展では、仙境へ私たちを誘う4名の作家による作品を展示します。

### MAMスクリーン016：ツァオ・フェイ(曹斐)

中国の改革開放以降に生まれた世代を代表するアーティストとして、国際的に活躍するツァオ・フェイ。長編映像作品《新星》(2019年)を上映します。

### MAMリサーチ009：正義をもとめてーアジア系アメリカ人の芸術運動

1960年以降にアメリカで実践されたアジア系の作家や音楽家の多岐にわたる文化活動、作品やプロジェクトなどを紹介。アートが果たしてきた重要な役割を検証します。

- 日時：6/29(水)～11/6(日) 10:00～22:00(最終入館 21:30)  
※火曜日のみ17:00まで(最終入館 16:30) ※会期中無休
- 場所：森美術館(六本木ヒルズ森タワー 53階)
- 入館料：「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」のチケットで観賞可

## ■ 東京ミッドタウン



1/2はじまった、1/2おわった、たといいつであらうとも  
2008年/2016年 石川文化振興財団所蔵  
©Lawrence Weiner, Okayama Art Summit 2016  
Courtesy of TARO NASU  
Photo: Yasushi Ichikawa

### ローレンス・ウィナー 《HERE FOR A TIME THERE FOR A TIME & SOMEWHERE FOR A TIME》

東京という都市、そして六本木という街の歴史や現在(いま)にインスピレーションを得た作品が、六本木ヒルズや東京ミッドタウンなど数カ所で展示されます。英語と共に日本語が使用された作品は、翻訳のニュアンスに踏み込んだディスカッションの結果として完成しています。言葉と文字が伝える意味や心象の、翻訳しようとしてもしきれない何か、作品として提示されます。

- 日時: 9/3(土)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所: 東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン ストリートバナ
- 参加料: 無料

先行展示プログラム



photo: 木奥恵三

### キムスージャ《演繹的なもの》

宇宙のはじまりをイメージした作品。漆黒のオブジェは全ての始まりの無を連想させ、異次元にぽっかりと開かれた穴のようにも見えます。作品の周りを移動しながら見ると、足元の鏡に写り込んだ建物や木々までもがゆらめき、そこにぽっかり空いた黒い空間のようなオブジェとも相まって視覚的にも感覚的にも不思議な作品体験へと導かれます。

- 日時: 9/3(土)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所: 東京ミッドタウン プラザ1階
- 参加料: 無料

先行展示プログラム



### 古屋崇久《人工知能による顔の識別》

2019年の東京ミッドタウンアワードにて同作品を発表し、三年が経ちました。機械を装う必要性から逃れ、機械でない日常というものがより一層SF感を味わせてきます。猿の惑星のラストシーンのように悪夢から逃れた先の空虚感が街を歩く私の視線を自動販売機やロボットに漂わせ続けています。私は《未来》という言葉に表れる無限の表現を支えるであろう人工知能に敬意を表してもう一度機械になろうと思いました。

- 日時: 9/17(土)～9/19(月・祝)11:00～20:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所: 東京ミッドタウン ガレリア2階 lucien pellat-finet横
- 参加料: 無料



'WOODY BEAR' 2020 © magma,  
Photo by Kenya Chiba

### magma《ROCK'N'》

人の脳は感覚器官から受ける情報の80%を視覚に頼っているらしい。マスクをつけることがあたりまえの今、顔半分しか視覚によって情報を得られない分、他の感覚器官を働かせて人を認識しようとする。例えば、視覚情報が50%、残りの半分を別の感覚で補えるようになったとしたら、みえる世界はどんなふうになるだろうか。六感をテーマにシンボリックなコラージュ作品を制作。

- 日時: 9/3(土)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所: 東京ミッドタウン プラザ1階
- 参加料: 無料

六本木未来会議アイデア実現プロジェクト#20

先行展示プログラム



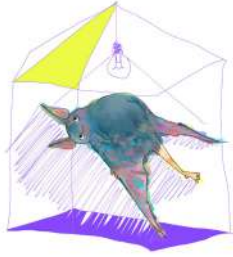
The Laughing Man (2022), 3D Illustration  
by Kai Yoshizawa

### 松田将英《The Big Flat Now》

ナウでフラットな時代に生まれた「THE LAUGHING MAN CLUB」は、攻殻機動隊で知られる「笑い男」と、ネット上の多様なコミュニケーションのシンボル「笑い泣き」をマッシュアップしたシリーズ作品。物理的空間と仮想時間を区別せず、抽象的なサポートと直接参加およびコミュニティを融合しながら、ビジュアルアート、ニュースレター、商品などの「コンテンツ」と呼ばれる統一されたスライムを通じて、Netflixのようにチャプター形式で展開される。またそれは、松田や友人たちの気分や雰囲気に合わせて展開される。

- 日時: 9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所: 東京ミッドタウン ガレリア
- 参加料: 無料





## 牧野永美子 《あかるい場所》

同じエリア内に「昼行性」と「夜行性」、違う性質をもつ生き物が時間的な棲み分けをして共存していることがよくあります。この街ではどうでしょう。私たちは灯りさえあれば昼も夜もありません。灯りの灯る場所で過ごす間に時間の感覚は狂ってゆきます。時間的な棲み分けを失ったこの街は昼も夜も私たちのもの…。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：東京ミッドタウン プラザ1階
- 参加料：無料



## 坂本洋一 《Floating Surface》

工業素材であるシリコン製の弦を振動させて水面に見立て、波立つ海を切り出したかのような風景を作るインスタレーションです。湖や川、海をただあてもなく眺めてしまうようなことがテクノロジーを用いた自然の見立ての中にも沸き起こるのかを問いかけます。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：東京ミッドタウン ガレリア1階
- 参加料：無料

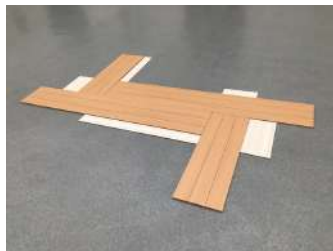


《Where Are We Going?》2020年

## 山本千愛 《犬も歩けば棒に当たる》

12フィートの木材を持ってどこでも自由に歩いてきた作者の「12フィートの木材を持ってあるく」プロジェクトは今回、道路使用許可が下りなかった。許可を得ながら12フィートの木材を持って歩こうとすると、とたんに歩く自由を失ってしまうようだ。唯一歩くことの許された東京ミッドタウンの敷地内をひたすら歩く。公道には出られない。繋がれた庭の犬たちを追体験しながら、許可された敷地しか歩けない景色はどのように見えるのだろうか。(本人を見つけ次第、話しかけたり、一緒に歩くことが可能です。)

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝) 13:30～19:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：東京ミッドタウン プラザB1階/ミッドタウン各所
- 参加料：無料



場面 2017年

## 小野冬黄 《インテリア》

室内装飾、室内調度品、室内設計を指す「インテリア」。室内のさまざまな目的に合わせて作られる家具や日用品は、明確な機能や美しい形などをもって生活に寄り添い役割を果たします。それらも配置の方法やもの同士の組み合わせを少し変更することによって、特に用途のない「作品」と呼びうることはできるのでしょうか。東京ミッドタウン3階の「インテリア&デザイン」と分類される店舗が多く並ぶフロアで、「インテリア」と「作品」の認識を探ります。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝) 11:00～20:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：東京ミッドタウン ガレリア3階 IDÉE SHOP/IDÉE CAFÉ PARC前
- 参加料：無料

## 関口光太郎 《みんなの形で凱旋門を包もう(エッフェル塔も!)》

21\_21 DESIGN SIGHT企画展「クリストとジャンヌ＝クロード "包まれた凱旋門"」の関連プログラムとして、造形作家の関口光太郎によるワークショップで制作しました。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 参加料：無料

21\_21 DESIGN SIGHT共同企画

先行展示プログラム



## ■ 東京ミッドタウン



### ISETAN SALONE 現代アート「アート&キャラクター」

可愛いキャラクターという一面と、もう一面にある現代アートの意味合いを知ることにより、新たな発見ができる展示となります。今回のメインアーティストであるSKYは、年齢や人種の垣根を越えて、子供時代の記憶に残るラバーダックをキャラクター化しています。その他、有名作家のキャラクターも多数展示いたします。この機会にぜひご覧くださいませ。

< 出品作家 >

SKY / 村上隆

- 日時：9/14(水)～9/27(火) 11:00～20:00
- 場所：東京ミッドタウン ガレリア1階 ISETAN SALONE
- 参加料：無料

同時開催プログラム

## ■ サントリー美術館



### 美をつくし—大阪市立美術館コレクション

大阪市立美術館は、東京・京都に次ぐ日本で三番目の公立美術館として、昭和11年(1936)に開館しました。長年にわたり築かれたコレクションは、日本・中国の絵画や書蹟、彫刻、工芸など8,500件を超え、時代も紀元前から近代まで実に多彩です。本展では、大阪市立美術館が大規模改修工事のために令和4年(2022)秋から休館するのを機に、同館でもそろって展示されることが減多にない名品を、館外で初めて一堂にご紹介します。

- 日時：9/14(水)～11/13(日) 10:00～18:00、金・土および9/18(日)、9/22(木)、10/9(日)、11/2(水)は10:00～20:00(最終入館は閉館30分前)  
※休館日：毎週火曜日(ただし11/8は18:00まで開館)
- 場所：サントリー美術館 展示室
- 入館料：一般 1,500円、大学・高校生 1,000円、中学生以下無料



撮影/吉村登

### 山中透晶《飛天—Celestial maiden》

「新たなる伝統の胎動」をコンセプトに、様々な伝統芸能の技法を掛け合わせ現代に再構築した古典×現代ダンスパフォーマンス。ペルシャ、ガンダーラそして日本、悠久の時を超えシルクロードを伝い、六本木アートナイトに舞い降りる飛天天衣(ひてんはごろも)の瞬く煌めき。現代舞踊と古典の舞、現代音楽と古典楽器、その融合は神秘的な化学反応を起こし、サントリー美術館に示現する。

制作協力/(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団

- 日時：9/17(土) 13:30～、15:30～、18:00～(各回約45分)
- 場所：サントリー美術館 6階ホール
- 参加料：無料(別途要入館料)【事前申込優先】



©田山達之

### 「六本木アートクルーズ」記録映像上映

企画協力：国立新美術館、森美術館ラーニング。事前に開催した中高生対象ワークショップの記録映像や制作物を展示します。六本木の美術館をめぐる多様なアートに出会う旅の記録をご覧ください。

※事前プログラム「六本木アートクルーズ」は8月17日(水)開催。

- 日時：9/17(土)～18日(日)10:00～20:00、19日(月・祝)10:00～18:00
- 場所：サントリー美術館 1階レクチャールーム
- 参加料：無料

## 21\_21 DESIGN SIGHT



### クリストとジャンヌ＝クロード "包まれた凱旋門"

現代美術作家クリストとジャンヌ＝クロードの活動の根源と広がりに関心をあてた展覧会です。2021年9月にパリで実現した「包まれた凱旋門」プロジェクトの背景や制作過程を紹介することで、創造の大きな力に目を向けます。

※開催中に関連プログラムを行う予定。詳細はウェブサイトにて掲載。

- 日時：2022/6/13(月)～2023/2/12(日) 10:00～19:00(入場は18:30まで)  
※休館日：毎週火曜日、年末年始(2022年12月27日 - 2023年1月3日)
- 場所：21\_21 DESIGN SIGHT
- 入場料：一般1,200円、大学生800円、高校生500円、中学生以下無料

## 国立新美術館



カジミール・マレーヴィチ《スプレムス 38番》  
Museum Ludwig, Köln / Cologne, ML 01294.  
(Photo: © Rheinisches Bildarchiv Köln, rba\_d033965\_01)

### ルートヴィヒ美術館展

#### 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション

ドイツ第4の都市、ケルン市が運営するルートヴィヒ美術館は、20世紀から現代までに特化した世界有数の美術館です。その優れたコレクションは、市民からの寄贈をもとに形成されてきました。本展覧会では、館名に名を冠するルートヴィヒ夫妻をはじめとするコレクターたちに焦点を当て、ドイツ表現主義や新即物主義、ピカソ、ロシア・アヴァンギャルド、ポップ・アートなど、絵画、彫刻、写真、映像を含む代表作152点をご紹介します。

- 日時：6/29(水)～9/26(月)10:00～18:00(最終入場17:30)  
※毎週金・土曜日は10:00～20:00(最終入場19:30) ※休館日：毎週火曜日
- 場所：国立新美術館 企画展示室2E
- 観覧料：一般 2,000円、大学生 1,200円、高校生 800円



李禹煥、鎌倉にて、2022年  
Photo© Lee Ufan, photo: Shu Nakagawa

### 国立新美術館開館15周年記念 李禹煥

戦後日本でもっとも重要な美術動向のひとつ「もの派」を代表する美術家、李禹煥(リ・ウファン、1936年生)の大規模な回顧展を開催します。

韓国の慶尚南道に生まれた李は、1960年代末から1970年代初頭にかけて、自然や人工の素材を節制の姿勢で組み合わせ提示する「もの派」を、作品制作だけでなく著述においても牽引しました。東京では初めての回顧展となる本展覧会では、李の創造の軌跡をたどるとともに、新たな境地を示す新作も発表されます。

- 日時：8/10(水)～11/7(月)10:00～18:00(最終入場17:30)  
※毎週金・土曜日は10:00～20:00(最終入場19:30) ※休館日：毎週火曜日
- 場所：国立新美術館 企画展示室1E
- 観覧料：一般 1,700円、大学生 1,200円、高校生 800円



今井俊介《untitled》2017年

### 今井俊介《untitled》

今井俊介は、絵画の基本的要素である、色、形、空間についての考察を基盤として制作しています。色面の各々は互いに浸食することなく、ハードエッジの画面が生み出されます。近年では、絵画から抽出された色面のパターンを紙に出力して壁面に施す作品や、それを転写した布を撮影した映像作品も手がけています。国立新美術館の広大な1階ロビーで、絵画から抽出された色面のパターンをインスタレーションによって展開します。

- 日時：9/14(水)～9/19(月・祝) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：国立新美術館 1階ロビー
- 観覧料：無料



三原聡一郎《空白のプロジェクト#4 想像上の修辞法》2016年  
対馬アートファンタジア協力 撮影：山本糾

### 三原聡一郎《空白のプロジェクト#4 想像上の修辞法》

《想像上の修辞法》は、東日本大震災後に作家が開始した「空白のプロジェクト」の完結作であり、鳥のさえずりのような音を発生させる「バードコール」という音具を応用した装置を用いたサウンドインスタレーションです。木片に挿入したボルトを、プログラミングされたモーターによってランダムに回転させることで、摩擦音を生じさせています。人間は、鳥のさえずりとして聞いていた音が、人工物から発せられた音であると認識した瞬間に、どのような反応をするのでしょうか。各所で鳴る音に耳を澄ましなが、注意深く会場内を巡っていただきたいです。

- 日時：9/14(水)～9/19(月・祝) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：国立新美術館 館内各所
- 参加料：無料



Photo courtesy: Sony Park Mini

### 玉山拓郎《NACT View 01》

既存の空間を見知らぬ風景に変容させることを得意とする玉山拓郎による、新作インスタレーションを1階ロビーにて展示します。黒川紀章によって設計された横に長く伸びる国立新美術館のロビーでは、2つのコンクリートコーンが縦16m、8mと強い存在感を放っています。今回、玉山拓郎はこのコーンの形状をモチーフとして扱い、空間全体にまで意識を促すような光の作品を生み出します。

- 日時：9/14(水)～12/26(月) 時間はウェブサイトにて掲載予定  
※休館日：毎週火曜日
- 場所：国立新美術館 1階ロビー
- 参加料：無料



### <公募展> 第106回 二科展

主催：公益社団法人二科会  
作品ジャンル：絵画・彫刻・デザイン・写真

- 日時：9/7(水)～9/19(月・祝)10:00～18:00(最終入場17:30)  
最終日は10:00～14:00(最終入場13:00) ※休館日：毎週火曜日
- 場所：国立新美術館 公募展示室 1A,1B,1C,1D,2A,2B,2C,2D,3A,3B、野外展示場 A,B,C,D
- 観覧料：一般1,000円、大学生・高校生800円、中学生以下無料  
9/17(土)～9/19(月・祝)の期間中は本ガイドブックの提示で入場料金100円引き



今井俊介《untitled》2022年

### クロストーク：今井俊介×沢山遼

国立新美術館の開放的なロビーでインスタレーションを発表する今井俊介と、美術批評家である沢山遼によるクロストークを開催します。今井は、二次元と三次元が交差する、鮮やかでポップな絵画を基盤にしつつ、立体や映像、そして現実の空間を取り込んだインスタレーションへとメディアムを拡大してきました。今回対談するのは、絵画についての鋭い考察で知られる美術批評家、沢山遼です。学生時代からの友人だという二人の初めての対談を通じて、今井の絵画の本質とその軽やかな変遷に迫ります。

- 日時：9/19(月・祝)16:00～16:45
- 場所：国立新美術館 3階講堂
- 定員：100名
- 参加料：無料／要事前申し込み ※申し込み方法等の詳細は、公式ウェブサイトにて告知します

### 私たちの皮膚の下には、カラフルな血が巡っている



Polychromatic Skin -Gender Tower- イメージ

#### 増田セバスチャン《Polychromatic Skin -Gender Tower-》

多種多様なマテリアルを用いて、カラフルなジェンダーを表現したタワー。六本木の交差点にピンを立てる。私たちの皮膚の下には、カラフルな血が巡っている—《Polychromatic Skin》はジェンダーに代表される自由と平和の前に立ちはだかる無意識下の固定概念を突き破る・解放する作品シリーズです。人種・宗教・年齢・性別・国境…あらゆる壁を突破して繋がる手段を、我々は既に持っています。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木交差点時計塔
- 参加料：無料



Polychromatic Skin -Flower- イメージ

#### 増田セバスチャン《Polychromatic Skin -Flower-》

真っ白なプランターをカラフルに彩ります。私たちの皮膚の下には、カラフルな血が巡っている—《Polychromatic Skin》はジェンダーに代表される自由と平和の前に立ちはだかる無意識下の固定概念を突き破る・解放する作品シリーズです。人種・宗教・年齢・性別・国境…あらゆる壁を突破して繋がる手段を、我々は既に持っています。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木交差点プランター
- 参加料：無料



Polychromatic Skin -Gender Wall- イメージ

#### 増田セバスチャン《Polychromatic Skin -Gender Wall-》

多種多様なマテリアルを用いて、カラフルなジェンダーを表現したウォール。私たちの皮膚の下には、カラフルな血が巡っている—《Polychromatic Skin》はジェンダーに代表される自由と平和の前に立ちはだかる無意識下の固定概念を突き破る・解放する作品シリーズです。人種・宗教・年齢・性別・国境…あらゆる壁を突破して繋がる手段を、我々は既に持っています。

- 日時：9/10(土)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：ロアビル仮囲い
- 参加料：無料

先行展示プログラム



今井俊介《untitled》2017年

#### 今井俊介《untitled》

今井俊介は、絵画の基本的要素である、色、形、空間についての考察を基盤として制作しています。色面の各々は互いに浸食することなく、ハードエッジの画面が生み出されます。絵画から抽出された色面のパターンを、六本木交差点にある高速道路の橋脚に出現させます。三次元に展開された絵画的イリュージョンをお楽しみください。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：六本木交差点橋脚
- 参加料：無料



《窓》2018年  
展示風景：台湾高速铁路、台中駅

#### マイケル・リン《窓》

本作では、ジオットハウスと六本木ヒルズのウェスト・ウォーク南のファサードという、規模も背景も異なる2つの場所で、台湾の伝統的な格子窓から流用したコイン模様のモチーフが展開されます。格子のモチーフは「見る」という体験を促すスクリーンとして機能し、コインの模様は経済的な交換を意味しています。見るという行為と経済的な交換を混ぜ合わせることで、《Windows》は、六本木の2つの場所と、ナイトライフや(ウィンドウ)ショッピングといった活動を通して、現代の視覚的消費文化について考察を促すのです。

- 日時：9/3(土)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)
- 場所：ジオットハウス
- 参加料：無料

先行展示プログラム

## ■ 六本木交差点/六本木各所エリア



《WHITE CUBE - WHITE CUBE 2018》、  
アートフロントギャラリー、写真：野口浩史

### 原田郁《WHITE CUBE - WHITE CUBE - ROPPONGI 2022》

六本木の展示のために原田は自身のPCの中の世界に六本木の建物空間を仮想空間として描き、その仮想空間に立って見えた世界を現実空間に戻して展示します。さらに今回は2018年から始まった視覚的なトリックの要素を加え、見る人が視点を動かすことで不思議な歪みを体験させます。肉眼だけでなく、携帯を通して作品を鑑賞してもらうことが重要で、架空の空間を映しとったような写真になります。こうして展示を通して風景を架空と往復させる仕事を作家は追及しています。

●日時：9/3(土)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)

●場所：第1レーヌビル1階  
●参加料：無料

先行展示プログラム



©2019 GengoRaw

### GengoRaw (石橋友也+新倉健人)、吉田竜二、二口航平、吉田智哉《バズの囁き》

Twitterのトレンドワードをもとに、AIが次々と詩を生成するインスタレーション作品。膨大な量のコトバを発信するようになったSNS時代の我々とそれらを統計的に処理する新しい知性を衝突させることによって、現代を取り巻くコトバとメディアを描き出す。

●日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)  
●場所：イグノポール1階  
●参加料：無料



photo: Daisaku OOZU

### リヴァ・クリストフ《人間自動販売機》

ストリート・アート界で活躍する気鋭の作家が、本企画のために制作した大型の新作絵画作品を発表します。展示場所はかつてコンビニエンスストアとして使われていた空き店舗ですが、作家は本作で消費社会に生きる人間のあり方について疑問を投げかけます。作家の真骨頂であるブラックユーモアも強く感じることができるでしょう。

●日時：9/3(土)～9/16(金)10:00～20:00、9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00  
(9/19(月・祝)のみ18:00まで)

●場所：矢口ビル1階  
●参加料：無料

先行展示プログラム



### ノラ・デザインコレクティブ《つかの間》

画面の中には人が住んでいます。どこの誰かもわからない。関わるができるのは2秒だけ…。私たちは、日常の一部として見かけるようになった消毒液のディスペンサーをインターフェースとして捉え直し、新たな映像再生装置として六本木アートナイト内の各所に設置/展示します。見つけたら、消毒しつつ、画面から目をそらさないようどうぞお気をつけください。

●日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～22:00(9/19(月・祝)のみ18:00まで)  
●場所：ラピロス六本木、イグノポール1階  
●参加料：無料



photo: Ikuya Takahashi

### 東弘一郎《無限車輪》

取手に住み、そこが自転車の街だと知った時、作家は衝撃を受けた。でも誰も自転車になんか乗っていない。競輪場があったことから、自転車の街として栄えようとしたらしい。いまはそんな取手で、自転車が大量に放置され、破棄されている。作家の制作活動によって、自転車は生まれ変わる。それぞれの自転車にはストーリーがある。どこで買ったのか、どんな使い方をしたのか、どこに行ったのか。その元の持ち主の記憶の断片を集めることで、時間も歴史も静止してしまった自転車に、新しい命を吹き込むことは出来ないだろうか。

●日時：9/17(土)～9/19(月・祝) 10:00～18:00  
●場所：六本木西公園  
●参加料：無料

## ■ 六本木交差点/六本木各所エリア

### アートにエールを！広場

「アートにエールを!東京プロジェクト」は、コロナ禍においても文化の灯を絶やさないため、東京都が全国に先駆けて始めた芸術文化活動支援事業です。活動を自粛せざるを得ないプロのアーティストやスタッフ等が制作した映像作品を発信することで活動を支援するとともに、多くの方にアートに触れられる機会を提供しています。

この「アートにエールを!広場」は、「アートにエールを!東京プロジェクト」"美術部門"よりセレクトされた方に六本木西公園でライブペインティングを行っていただく企画です。リアルなパフォーマンスと作品をお楽しみください。また、そのほかにも、「アートにエールを!東京プロジェクト」にも参加している3名のアーティストの作品もあわせて紹介いたします。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～18:00
- 場所：六本木西公園
- 参加料：無料



#### ライブペインティング出演者 ※各ライブペインティング日時は変更の可能性がありますのでご了承ください。



田中紳次郎/アーティスト  
日時：9/17(土) 10:00～13:00



伊東明日香/美術家  
日時：9/17(土) 13:00～15:30



NOVOL/Painting Artist  
日時：9/17(土) 15:30～18:00



Maki Emura/illustrator, graphic designer  
日時：9/17(土) 15:30～18:00



MILTZ/Graphic Artist  
日時：9/18(日) 10:00～13:00



福士悦子 / イラストレーター・デザイナー  
日時：9/18(日) 10:00～13:00



伊藤由華/画家  
日時：9/18(日) 13:00～15:30



スサイタカコ/美術家  
日時：9/18(日) 15:30～18:00

「アートにエールを!東京プロジェクト(個人型)」公式ウェブサイトには、美術だけでなく音楽、演劇、舞踊、映像、伝統芸能などにジャンルが分かれ7,000件を超える映像作品を紹介しています。東京の多様な文化、素晴らしいアーティストや魅力あふれる作品との出会いがあるはずです。

URL：<https://cheerforart.jp/>

#### インスタレーション作品

下記3名は、「アートにエールを!東京プロジェクト」に参加しています。



東弘一郎《無限車輪》  
photo: Ikuya Takahashi



井口雄介《KALEIDOSCOPE》  
©YusukeIguchi



古屋崇久《人工知能による顔の識別》

## ■ 六本木交差点/六本木各所エリア

### 三河台公園 六本木をつかまえる



「地面をつかまえる」をつかまえる絵

岩田とも子／協働制作 港区立六本木中学校美術部

#### 《地面をつかまえる -六本木の地図づくり-》

地図とは、人の足跡や眼差しによって地面を宿した道具である。道は生き物の歩みで繋がり交差して、光や眺めはうつろい続ける。地面はまるで呼吸しながら進化する生き物のよう。そんな地面をつかまえて《地面の地図》を出現させる。

人の流れののって歩いて交差点。頭上を走る大きな道路に沿って坂を下るその途中、多様な木々が昼は木陰を落とし、時に静まりをつくって待っている三河台公園にて。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～18:00
- 場所：三河台公園
- 参加料：無料



『桜のつぼみ』2021、素材・海水、塩、紙

#### 水川千春《花の茶室 一つながる水脈》

海からこの地に来たものたち。くり返すループと共に、かたちを変えながら、これからも花は咲き続けていく。これからもという祈りに似た、今日のつぶやき、今の一杯は、次の季節へと続く花のつぼみ。

海水を使ったあぶりだしによる作品です。描いている時は透明で目には見えませんが、火に触れ、水の中のものが焦げ出て色になり、絵が浮かび上がってくる技法で描かれています。

- 日時：9/17(土)～9/19(月・祝)10:00～18:00
- 場所：三河台公園
- 参加料：無料

## ■ 六本木商店街



#### 六本木街路灯展覧会

六本木商店街振興組合が設置しているスマート街路灯のデジタルサイネージを使って、六本木フォトコンテストや六本木デザイナーズフラッグ・コンテストの優秀作品を掲載展示いたします。

- 日程：9/3(土)～
- 場所：六本木交差点街路灯
- 参加料：無料

先行展示プログラム



## ■ インクルーシブ・アート・プログラム

六本木アートナイトをさまざまな人たちと巡るツアーを開催します。参加者同士で対話をしながら、作品やまちの魅力発見を楽しみましょう。

企画協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

### オンライン鑑賞会「みんなdeおしゃべり鑑賞会-六本木アートナイト-」

全国どこからでも参加が可能！見えない人や聞こえない人たちと共に作品を楽しみます。お話しできる場所で、ぜひリラックスしてご参加ください。

- 日時：9/18(日) 18:00~20:15
- 会場：オンライン
- 参加料：無料／要事前申し込み ※申し込み方法等の詳細は、8月上旬より公式ウェブサイトにて告知します
- 対象：オンライン鑑賞会に関心のあるすべての人(定員10名程度)
- 参加方法：Zoomを使用

### 鑑賞ツアー「鑑賞ツアー de大冒険！-六本木アートナイト-」

みる、きく、はなす、そして感じる。さまざまなコミュニケーションで、アートナイトと一緒に冒険！六本木アートナイトの作品をのびのび自由にたのしみましょう。

- 日時：9/19(月・祝) 14:00~16:00
- 会場：六本木アートナイト会場各所
- 参加料：無料／要事前申し込み ※申し込み方法等の詳細は、8月上旬より公式ウェブサイトにて告知します
- 対象：視覚障害のある人、聴覚障害のある人、車椅子やベビーカー等を利用する人、鑑賞会に関心のあるすべての人(定員10名程)

## ■ 外国語ガイドツアー



©2018 Kenji Seo

### Wander & Wonder Tour

アートで自分の街を再発見しよう！英語を用いた作品鑑賞ツアーを開催します。コロナ禍で東京や国際色豊かな六本木をもうひとつの故郷としている方も多くいることでしょう。ツアー後は、自分のルーツや思い出を参加者と共有し、さまざまな視点を持ちよりながら、作品や街について対話していきます。作品をより深く味わいながら、今暮らしている場所を再考していくきっかけをつくります。

企画協力：ラナ・トラン

- 日時：9/17(土) 17:00~19:30、9/18(日)17:00~19:30
- 会場：六本木ヒルズ ルイズ・ブルジョワ《ママン》(巨大クモの彫刻)下集合／六本木アートナイト各所
- 参加料：無料／要事前申し込み ※申し込み方法等の詳細は、公式ウェブサイトにて告知します。
- 対象：英語でお話できる方(海外からお越しの方や日本にお住まいの異なる文化をお持ちの方)
- 定員：15名程度



### 「六本木アートナイト・デジタル 2022」

公式ウェブサイトや公式YouTubeチャンネル【RAN TV】より、オープンコール・プロジェクトの採択映像作品や六本木アートナイトの振り返りトーク、記録動画などを公開します。六本木アートナイト本番開催に先駆け、9月3日(土)より順次コンテンツを配信いたします。

六本木アートナイト 2022の参加アーティストからのコメントは、随時公式SNSや公式YouTubeチャンネル【RAN TV】にてアップ予定です。

- 日時：9/3(土)～
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)
- 参加料：無料



### 南條史生氏による六本木アートナイトの振り返りトーク

案内役：南條史生（六本木アートナイト2009-2019実行委員長、森美術館特別顧問）

元実行委員長である南條史生氏が、初年度（2009年）～2019年まで、歴代のメインアーティストからのコメントとともに六本木アートナイトを振り返りました。（収録：2021年夏）

- 公開日：9/3(土)～
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)
- 参加料：無料



### C for S (Moeko Ishiguro, Masumi Inoue) 《Choreography of encounters》

私達は歩く、座るといった日常的な動きを使い、空間を理解する試みを続けています。この空間を理解する動きを振付、振付によって生じるイメージをセノグラフィと考えています。本作では公共空間での動きを記録、編集し、音を付加することで、身体と空間の関係、その組み合わせによって生じるイメージの可能性を表現しています。私達は公共空間そのものが本来持っている意味や目的を取り払い、一種の遊び場へと変化させることで、人と空間の相互作用を純粋に観察することの面白さを表したいと考えています。作曲：マラン・エスカンドゥ。

- 公開日：9/3(土)～
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)
- 参加料：無料

「オープンコール・プロジェクト」  
採択プログラム



地代所悠

### 地代所悠《Blurred Boundaries》

プログラムで生成した旋律にコントラバスの即興演奏を重ねるパフォーマンスを撮影、その映像とスキャンした自身の3Dモデルを用いたCGアニメを組み合わせることで、即興と再現、現実と虚構、ヒトとコンピュータなど背反する二つの要素をモンタージュしてその境界をぼやかすことを試みた映像作品です。パフォーマンス時は主観的であり、編集の過程では客観的に見ることになるという自作自演の制作行為自体が境界を曖昧にする作品の一部です。旋律を生成するプログラムにはMax8を使用しシンセベースの音色で演奏をさせました。

- 公開日：9/3(土)～
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)
- 参加料：無料

「オープンコール・プロジェクト」  
採択プログラム

## ■ 六本木アートナイト・デジタル



### 長谷川依与 渡川いくみ《sure》

ロックダウンのバリでレジデンスを行なった二人の日本人アーティストによる映像作品。長谷川は、タイルの目地合わせに使用されるタイルレベリングクリップを部屋中に敷き詰め、はかることの「正確さ」を問いかける。彼女は、タイルを貼り終えると同時に消え去るクリップと、度重なる外出禁止令によって誰にも見られることなく消え去る制作過程の記憶を重ね合わせる。このインスタレーションの中で、ダンサーの渡川は身体的なレベルで空間を知覚する際に起こる「ずれ」を感じつつも、身体の動きが生み出す新たな空間性を観客に提案する。

- 公開日：9/3(土) ～
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)
- 参加料：無料

「オープンコール・プロジェクト」  
採択プログラム

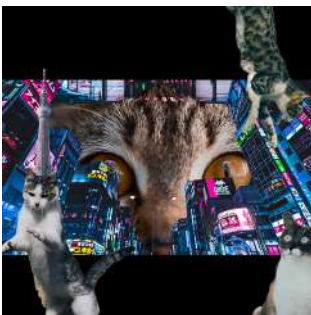


### 原啓太《Paper Thin》

和紙、おばけ、ネオンの夢。近くて遠いこの国で、私は回想する。過去の記憶を辿りながら、大人になっていく過程で手ばなしたものの、時の流れで気づけば失われていたものを私は再び追求めてゆく。高知県を舞台に、日常生活から姿を消しつつある和紙と私の記憶をつなぐ物語。本作に登場するペーパーマンは、土佐和紙でつくられました。

- 公開日：9/3(土) ～
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)
- 参加料：無料

「オープンコール・プロジェクト」  
採択プログラム



### 坂根大悟《東京曼荼羅》

この作品は動的平衡的映像空間を追い求める作者の脳内で再構成された東京を表現したものです。東京は常に破壊と創造が高速で行われている街です。こうした相反するものを表現するためにコラージュとサイケ表現を用いました。コラージュ表現は現実世界で、決して同居しないものを同居させることができます。歌舞伎町の空に猫が浮き、それも花火のように散り、またすぐ別の花が咲く。そのコラージュにサイケ表現を施し、境界をあいまいにしました。可能性と創造と破壊と極彩色を持つ広告爆走都市東京への愛をここに。

- 公開日：9/3(土) ～
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)
- 参加料：無料

「オープンコール・プロジェクト」  
採択プログラム



### コンソーシヨングループ・ノガラ《しなやかに生きる～曲がる人々～》

レストランのキッチンスタッフ、仕事中のサラリーマン、掃除に専念する清掃員、無邪気に遊ぶ子どもたち…。日常のさまざまなシーンに、奇妙にも溶け込む「曲がる」ひとたちを題材にした短編動画。ひとの身体はそこまで曲がるの？まるで人間とは思えない不思議な動き。気持ち悪いような美しいような非日常的な身体曲線を描きながら、彼らが集う先は…？

- 公開日：9/3(土) ～
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)
- 参加料：無料

「オープンコール・プロジェクト」  
採択プログラム

## ■ 六本木アートナイト・デジタル



コメカミワークス

### コメカミワークス《コメカミマスター『東京ミッドタウン』》

あらゆる物体や場所、方法でボールをこめかみに乗せる「コメカミマスター」がアートとデザインの街、六本木・赤坂エリアの中心にある東京ミッドタウンに出現。東京ミッドタウンでこめかみにボールを乗せる、シンプルな動きで構成された映像です。

- 公開日：9/3(土)～
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)
- 参加料：無料

「オープンコール・プロジェクト」  
採択プログラム



©2022 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©MADSAKI/Kaikai Kiki Co., Ltd.  
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro

### 六本木アートナイト 2022 アーカイブ

六本木アートナイト 2022の全参加作品を紹介。

- 公開日：9月下旬(予定)
- 場所：公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】
- 公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)
- 参加料：無料



六本木アートナイト2019 深夜3時に開催した  
近藤良平とその仲間たち「六本木夜舞場 Vol.7  
(真夜中の盆踊り)」

### 六本木アートナイト2009—2019開催記録

参加アーティストや実施プログラム、様々なデータなど、過去10回にわたる六本木アートナイトの全容を各回ごとにまとめた記録集を公開します。

- 公開日：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：公式ウェブサイト
- URL：<https://www.roppongiartnight.com/>
- 参加料：無料

## ■ 六本木アートナイト2022 開催概要

### 正式名称

六本木アートナイト2022

### 開催趣旨

「六本木アートナイト」は、生活の中でアートを楽しむという新しいライフスタイルの提案と、大都市東京における街づくりの先駆的なモデル創出を目的に開催する、アートの饗宴です。様々な商業施設や文化施設が集積する六本木を舞台に、現代アート、デザイン、音楽、映像、パフォーマンス等の多様な作品を街なかに点在させ、非日常的な体験をつくり出す本イベントは、東京を代表するアートの祭典として2009年3月にスタートし、年々発展を続けております。 ※2011年は東日本大震災、2020年・2021年はコロナ禍により中止

### 日時

2022(令和4)年9月17日(土)～9月19日(月・祝) 10:00～22:00(※19日のみ18:00まで)  
※9月3日(土)～一部作品は先行展示

### 開催場所

六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21\_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース  
デジタル(公式ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル【RAN TV】)  
公式ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>  
公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)

### 入場料／視聴料

無料(但し、一部のプログラム及び美術館企画展は有料)

### お問合せ

六本木アートナイト実行委員会  
ハローダイヤル：050-5541-8600(9:00～20:00)

### 主催

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21\_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

### 助成

令和4年度文化庁国際文化芸術発信拠点形成事業

### 特別協力

藤子プロ

ウェブサイト：<https://www.roppongiartnight.com/>  
Facebook：<https://www.facebook.com/RoppongiArtNight/>  
Twitter：[https://twitter.com/r\\_artnight](https://twitter.com/r_artnight)  
Instagram：[https://www.instagram.com/roppongi\\_art\\_night\\_official/](https://www.instagram.com/roppongi_art_night_official/)  
YouTube：[https://www.youtube.com/c/rantv\\_roppongiartnight](https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight)

※新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら実施いたします。

※実施内容等につきましては、新型コロナウイルスの感染状況や諸般の事情により、予告なく変更または中止する場合がございます。変更が生じる場合は、公式ウェブサイトや公式SNS等で改めてお知らせいたします。

開催についての詳細や、参加アーティスト情報などについては、今後随時発表予定です。

最新情報は順次、公式ウェブサイトや公式SNSにて発表してまいりますので、是非ご注目ください。

### < 報道関係のお問い合わせ >

六本木アートナイト実行委員会 広報プロモーション事務局 (PR01.内)

担当：三上 TEL：03-5774-1420 FAX：03-5774-1409

Mail：RAN@one-o.com

広報協力：liil inc. 篠原礼子 Mail：reiko@liil.com Cel：090-3535-9012

● 広報用画像はこちらからダウンロードいただけます  
<https://bit.ly/3uoWG6t>